

整理番号 H11YAHPO19

発送番号 112228

発送日 平成13年 4月17日 1 / 2

拒絶理由通知書

| | | | |
|----------|---------|--------|----------|
| 特許出願の番号 | 平成11年 | 特許願 | 第372164号 |
| 起案日 | 平成13年 | 4月12日 | |
| 特許庁審査官 | 柴沼 雅樹 | 7523 | 3S00 |
| 特許出願人代理人 | 安富 康男 | (外 2名) | 様 |
| 適用条文 | 第29条第2項 | | |

この出願は、次の理由によって拒絶をすべきものである。これについて意見があれば、この通知書の発送の日から60日以内に意見書を提出して下さい。

理 由

この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前日本国内又は外国において頒布された下記の刊行物に記載された発明に基いて、その出願前にその発明の属する技術の分野における通常の知識を有する者が容易に発明をすることができたものであるから、特許法第29条第2項の規定により特許を受けることができない。

記 (引用文献等については引用文献等一覧参照)

請求項1-8について

引用文献1、2

引用文献1には、「炭素含有量が500～5000ppmである窒化アルミニウム粉末」を1730～1920℃、80kg/cm²の条件で焼結成形したセラミック基板が記載されているから、これと略同一の製造方法によって製造された本件発明のセラミック基板が上記引用文献1記載のものと実質的に同一のものであることは明らかである。

なお、樹脂バインダーとセラミック粉末を混合して焼成し、非晶質カーボンを
続葉有

葉 続

含有するセラミックスを製造する原料とすることも周知慣用手段である(必要なら引用文献2等参照)。

また、焼結助材を用いることは、むしろ普通のことである。

この拒絶理由通知書中で指摘した請求項以外の請求項に係る発明については、現時点では、拒絶の理由を発見しない。拒絶の理由が新たに発見された場合には拒絶の理由が通知される。

引用文献等一覽

1. 特開平9-48668号公報
2. 特開平2-6367号公報

先行技術文献調査結果の記録

- ・調査した分野 I P C第7版 H 0 1 L 2 1 / 6 8, H 0 5 K 3 / 1 8, C 0 4 B 3 5 / 0 0
- ・先行技術文献 特開平9-278527号

この先行技術文献調査結果の記録は、拒絶理由を構成するものではない。

この拒絶理由について問い合わせがあるときは、特許審査第二部組立製造（TEL03-3581-1101内線6160）までご連絡ください。

整理番号 H11YAHPO17

発送番号 15832.1

発送日 平成13年 5月30日

1 / 2

拒絶理由通知書

| | |
|----------|--------------------|
| 特許出願の番号 | 平成11年 特許願 第372163号 |
| 起案日 | 平成13年 5月24日 |
| 特許庁審査官 | 三崎 仁 8928 4T00 |
| 特許出願人代理人 | 安富 康男 (外 2名) 様 |
| 適用条文 | 第29条第2項 |

この出願は、次の理由によって拒絶をすべきものである。これについて意見があれば、この通知書の発送の日から60日以内に意見書を提出して下さい。

理 由

この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前日本国内又は外国において頒布された下記 of 刊行物に記載された発明に基いて、その出願前にその発明の属する技術の分野における通常の知識を有する者が容易に発明をすることができたものであるから、特許法第29条第2項の規定により特許を受けることができない。

記 (引用文献等については引用文献等一覧参照)

- ・請求項1～5
- ・引用文献1～7
- ・備考

窒化アルミニウム焼結体に、熱伝導率を向上させるためにカーボン(一般的には結晶質)を添加させることは本出願前常套手段であり(例えば、引用例6第2頁左上欄第13～17行、引用例7第2頁左下欄だい19行～右下欄第1行参照)、非晶質カーボンを含有するカーボン含有窒化アルミニウム焼結体(引用例1及び2参照)に、更に熱伝導率を向上させるため結晶質カーボンを添加することは

続葉有

BEST AVAILABLE COPY

続 葉

当業者が容易になし得ることである。引用例1及び2には、アルカリ土類酸化物、希土類酸化物等を焼結助剤として添加することも記載されている。

本願明細書【0013】、【0016】を参照するに、上記非晶質のカーボンと結晶質のカーボンを含有している窒化アルミニウム焼結体は、本願発明のレーザラマンスペクトルの規定を満たすものと認める。

本願発明の窒化アルミニウム焼結体が、その用途を同じくする従来の窒化アルミニウム焼結体(引用例3～5参照)と比較して、進歩性あるものとは認められない。

引 用 文 献 等 一 覧

1. 特開平5-229871号公報
2. 特開平3-5375号公報
3. 特開平9-48668号公報
4. 特開平9-48669号公報
5. 特開平9-110405号公報
6. 特開昭60-186479号公報
7. 特開平1-179765号公報

BEST AVAILABLE COPY